

1. 観光客ニーズ調査まとめ

第2回観光振興会議

資料2(R6.9.3)

(1)目的

観光客の満足度やニーズ等、観光客の動向の現状を把握・整理することを目的に、「第二期栗東市観光振興ビジョン」策定に向けた調査事業として実施。

(2)調査の概要

- ・調査対象者：栗東市内の観光施設に訪れる観光客(対象者の居住地は市内・市外を問わない)
- ・調査方法：①市内観光施設(10か所)に設置したチラシによるWEBアンケート調査、および②市内観光施設(4か所)での対面によるアンケート調査
- ・調査期間：令和5年10月12日(木)～11月30日(木)
- ・回答者数：500人(①WEB回答262人、②対面回答238人)

(3)結果の概要

①観光客の旅行全体に対する意識の変化

- …コロナ禍を踏まえて、「アウトドア(キャンプやスポーツなど)を重視」(コロナ前対比：+6.2ポイント)や「体験型を重視」(同：+3.8ポイント)にシフトしつつある。
- 金勝地域の自然環境を活かした高規格キャンプ場やアクティビティ施設が開業しており、観光客のニーズに合致した観光施策の展開が今後も期待できる。

②交通手段

- …「自家用車」を利用した観光客が全体の8割超(81.2%)、「近畿地方」からの観光客に限定すると約9割(89.0%)を占めた。
- 名神高速道路・栗東ICが市の中心にあり、国道1号や国道8号、主要地方道草津守山線などの広域幹線道路が整備されていることで、道路の利便性が非常に高い。今後は、国道1号や国道8号バイパス等の広域幹線道路の整備が計画されており、交通利便性はさらに高まるものと思われる。引き続き道路の利便性を活かした観光客誘致に努めるべきと思われる。

③旅行の目的地

- …「栗東市内」が全体の4分の3(75.4%)を占めた。
- 多くの観光客は栗東市内の観光地を目的に来訪しており、観光地としての魅力度の高さがうかがえる。

④観光地の訪問動機

- …道の駅では「道路の表示看板」、宿泊施設では「ホームページ」が高い傾向にあるが、それ以外の観光地では「友人・知人からの口コミ」や「チラシやパンフレット」が高い傾向にある。
- 来訪者の口コミによる評判と観光地の広告宣伝効果が上手く絡み合っていると思われる。

⑤栗東市への観光に対して充実させてほしいもの

- …「土産品の種類」(40.2%)や「土産品の購入場所」(29.2%)といった「土産品」に関する回答が上位を占めた。
- 今後は、官民連携による地元産品を活用した「土産品の開発」はもとより、「土産品の購入場所」についてもさらに充実させる必要があると思われる。

2. 観光消費額ならびに経済波及効果の推計

- ・算出方法の異なる2パターンの推計結果を提示する。

		1人あたり 観光消費額 (A)	観光入込客数(B)
1	平均	2,867円	1,038,000人
2	日帰り客	1,811円	984,000人
	宿泊客	6,890円	54,000人

1による観光消費額 (A)×(B)
29億7,594万円

2による経済波及 効果の推計
28億5,600万円

※[1][2]とも(A)は観光ニーズ調査データより。

※[1]は観光客ニーズ調査の p31 掲載結果と同じ。

※[2]は平成 29 年度と同じ「観光経済波及効果簡推計システム」(経済産業省)を使用して算出。

詳細は別紙の参考資料を参照。

※[1][2]の(B)は、正確には合計 1,038,043 人だが、千人単位にして観光消費額を算出。

※経済波及効果は、観光消費額も含めた効果の総額。

3. 「観光振興ビジョン」想定数値に対する結果

- ・令和2年3月策定「栗東市観光振興ビジョン」において設定した想定数値に対する結果は以下のとおり。
- ・観光消費額は、想定数値に対して達成率 175.1%、基準年となる平成 29 年と比較すると 3.7 倍に増加している。
- ・経産省推計システムによる観光消費額から経済波及効果への乗数効果は [1.33 倍]。

	平成 29 年 (2017)	令和 5 年 (2023)		
	基準値	想定数値	結果	対 想定数値 達成率
① 観光入込客数	59 万 8,700 人	120 万人	103 万 8,043 人	86.5%
② 観光消費額	観光客ニーズ調査報告書			
	8 億 300 万円	17 億円	29 億 7,594 万円	175.1%
③ 経済波及効果	経産省推計システム			
	11 億 2,100 万円	23 億円	28 億 5,600 万円	124.2%

4. 参考(他の観光消費額、経済波及効果との比較)

- 日本の内部観光消費の乗数効果は 2.86 倍、京都市内観光の乗数効果は 2.65 倍となっている。栗東市の 1.33 倍とは大きな差があり、栗東市の観光消費による経済波及効果は相対的に小さい。

	観光消費額	経済波及効果 (観光消費額を含む)	乗数効果
日本内部観光(観光庁)(令和4年)	19.5 兆円	55.7 兆円	2.86 倍
京都市(令和5年)	1 兆 282 億円	2 兆 7,296 億円	2.65 倍

※いずれも日本人の国内旅行(日帰り・宿泊)、訪日外国人旅行を含む

5. 前回調査(平成 29 年度)との比較

第一期観光振興ビジョン策定にあたって平成 29 年度に観光客ニーズ調査を実施し、観光消費額等を算出している。今回、第二期観光振興ビジョン策定にあたり、同じ調査を令和 5 年度に実施した。両者の結果をもとに、観光入込客数や観光消費額などについて比較した。

- 観光入込客数は、前回調査と比較すると 439,343 人増加した (+42.3%)。調査箇所は、日帰り施設、宿泊施設とも前回調査から 3 施設増加した。

	1人あたり 観光消費額(A)	観光入込客数(B)	観光消費額 (A)×(B)
平成29年度調査	1,341円	59万8,700人	8億300万円
令和5年度調査	2,867円	103万8,043人	29億7,594万円

	日帰り施設数	宿泊施設数
平成29年	21施設	3施設
令和5年	24施設	6施設

- 平成 29 年度以降に増加した調査箇所を除いて同じ調査箇所と比較したところ、令和 5 年の観光入込数は+65.3%の増加となった。観光振興ビジョンのロードマップに基づいて事業を推進し、旧和中散本舗や金勝寺などの既存施設の情報提供による効果や、コロナ禍によるアウトドアニーズの増加などが増加要因として考えられる。

	観光入込客数客		
	日帰り客	宿泊客	
平成29年	58万9,200人	9,500人	59万8,700人
令和5年	98万1,661人	8,182人	98万7,843人
増減率	+66.6%	▲13.9%	+65.3%

- 令和 5 年の新規調査施設ならびに入込客数は以下のとおりとなっており、全体への影響は、日帰りは微増、宿泊は大幅増加となっている。

	令和5年の新規調査施設	令和5年の 観光入込客数
日帰り施設	・トレイルアドベンチャー ・栗東スラックラインyou空感 ・KONZEかもしかキャンピングビレッジ	2,703人
宿泊施設	・ホテルルートイン草津栗東 ・栗東スラックラインyou空感 ・KONZEかもしかキャンピングビレッジ	47,497人 (うちルートイン 41,376人)

- ・前回調査と比べて1人あたりの観光消費額が増加したのには宿泊客の影響が考えられる。令和5年度の観光ニーズ調査では、回答者500人のうち宿泊は104人(20.8%)、ルートインに立ち寄ったとの回答は22人となった。

6. まとめ

(1)観光入込客

平成29年から令和5年にかけて、市内観光施設、金勝寺、旧和中散本舗、大宝神社などの歴史に関する施設や、金勝山ハイキングコースやフォレストアドベンチャーなどの自然体験に関する施設の入込客数が増加している。

観光客の増加については、第一期観光振興ビジョンにおける「観光資源の磨き上げ」やコロナ禍によるアウトドアニーズの増加などに起因すると考えられる。

(2)観光消費額

1人あたりの観光消費額が増加した原因は、前回の調査と比較すると宿泊者が増加したことによるものと考えられる。宿泊を伴う消費により、旅行社への支払、交通費、宿泊費、飲食費に関する消費額が増加しており、これが消費額の増加につながっている。

以上